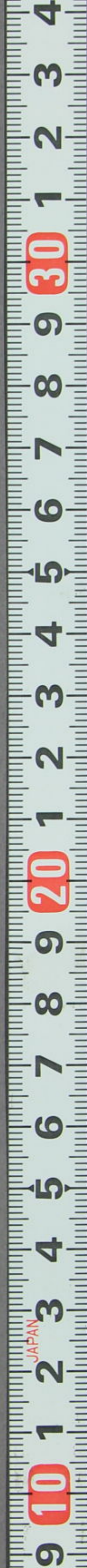


古今俳諧明題集

秋之部





古今俳諧明題集煉部目錄

秋椿	角觥	熱肉	残暑	頓入	踊躍	暮春	文殊會	七夕雨	六月三日	初葉	初煉	銀灯	借水寺子目清	身靈	三井寺女清	林善入	露	初暴風	煉鷹	湯飯	茅細	煉螢	湯	霧	送峯入	花砲	煉	靈祭	七夕鞠	七夕	七夕
十一	十一	後九至	八	七	六	五	三	二	二	初葉	後初玉	二	四	五	七	七	ハ	十	十一	十二	十二	十一	後十玉	九	八	七	五	後四玉	三	二	二

古今俳諧明題集煉部目錄



精輪	後十二	阜	後十二	蟋蟀	十四
紡績	十四	金鐘	十五	久於蟪蛄	十五
獨角仙	十五	天牛	十五	魚	十五
赤年花	後十五	敗	後十六	花敗	十七
荷	十七	蘭	十七	花枝	十七
秋海棠	十八	旋復花	十八	桔梗	十八
野菊	十九	馬唐	十八	女青	十九
芭蕉	十九	鬱金花	十九	雀麥	十九
早稻	廿	荻	廿	稻花	廿
冬瓜	廿	海菜	廿	西瓜	廿
		壺蘆	廿一	絲瓜	廿一

刀豆	廿一	海菜	廿一	蕃椒	後廿一至
毛楸	廿二	一葉	廿二	荻柳	廿二
木槿	廿三	二百十日	廿三	八角	廿三
釋奠	廿四	海菜	廿四	栝扁	廿四
三日月	廿四	司石	廿五	月	廿五
名月	後廿五	十五夜雨	廿七	叔生	廿七
海馬	廿八	初潮	廿八	放水	廿九
案山子	後廿九	那西	三十	野和	後三十
常紅	廿二	和	後廿二	雁	廿二
加樵	廿三	桑鳥	廿四	樹木鳥	廿四
乾	廿四	賜	廿五	鷓鴣	廿五



カルソバ 鹿 後五五  
 タチウラ 鱈魚 卅七  
 ササケ 鱈魚 卅七  
 クダリヤナ 下藻 卅八  
 ツキクサ 翠楊眉 卅九  
 ケイトウゲ 雞冠花 卅九  
 ヨバナ 芭花 四十  
 アサハ 藍花 四十一  
 スカゴ 零餉子 四十一  
 フホロシキ 牛蒡根 四十二  
 アカ子ホ 苗芋根 四十二  
 シカ 鹿 後五五  
 ハセツリ 鈔鈔 卅七  
 サビアユ 老法鱈 卅七  
 ウナギヤナ 鰻鱺魚 卅八  
 ホウセンクハ 厚仙花 卅九  
 ハゲイトウ 雁赤紅 卅九  
 アサハ 芭花 四十  
 ボクシノクサ 牡丹根 四十一  
 イモ 芋 四十一  
 ナメ子マク 雲葉子菜 四十二  
 クスリホリ 菜根 四十二  
 シカ 鹿 後五五  
 ハセツリ 鈔鈔 卅七  
 サビアユ 老法鱈 卅七  
 ウナギヤナ 鰻鱺魚 卅八  
 ホウセンクハ 厚仙花 卅九  
 ハゲイトウ 雁赤紅 卅九  
 アサハ 芭花 四十  
 ボクシノクサ 牡丹根 四十一  
 イモ 芋 四十一  
 ナメ子マク 雲葉子菜 四十二  
 クスリホリ 菜根 四十二  
 シカ 鹿 後五五  
 ハセツリ 鈔鈔 卅七  
 サビアユ 老法鱈 卅七  
 ウナギヤナ 鰻鱺魚 卅八  
 ホウセンクハ 厚仙花 卅九  
 ハゲイトウ 雁赤紅 卅九  
 アサハ 芭花 四十  
 ボクシノクサ 牡丹根 四十一  
 イモ 芋 四十一  
 ナメ子マク 雲葉子菜 四十二  
 クスリホリ 菜根 四十二

ガクソウソキ 茯苓劔 四十二  
 タミツサ 玉瓜 四十四  
 フクム 匏 四十四  
 アキノテタリ 沼出蛇 四十五  
 ノニヤノワカシ 野文刺 四十七  
 ナカキヨ 長衣 四十八  
 レンシユ 新酒 五十  
 ツニシモ 靛 五十一  
 ヒシエニフミ 雀擇 五十一  
 ツタ 地錦 五十二  
 イテウ 泥唐 五十三  
 タケカリ 葦草 四十二  
 フドウ 葡萄 四十四  
 モクフヨウ 木芙蓉 四十五  
 クニキ 九日并菊 後四十五  
 シウサヤ 十三衣 四十七  
 ヨサム 衣 後四十八  
 アビロウツ 魚鱗打 五十一  
 フゴヒノカモ 岩城毛尾 五十一  
 スメイトクメ 爵入大水鳥蛤 五十二  
 オモト 菊 五十二  
 ツツカヘイロラ 松ふき魚 五十二  
 カスカリ 柘榴 四十四  
 ヒメクサ 白英 四十四  
 モクセイ 木犀 四十六  
 アキノヒナ 沼轉像 四十六  
 タカライチ 宝市 四十八  
 キヌタ 揚衣 五十  
 ツエシグル 露毛尾 五十一  
 クニタケム 熊鍬 五十一  
 モミチフ 紅葉餅 五十二  
 モミチフ 紅葉 後五十二  
 ナニテシヨク 南七燭 五十三



賽珊ウメモト 五十四

棧カキ 五十四

柑カン 五十五

回青橙クワイ 五十六

榧子カヤ 五十六

焠アキノミ 五十七

栗クリ 五十四

梨ナシ 五十四

包橘カウジ 五十五

纓路柑リノミ 五十六

榧子カヤ 五十六

薯蕷アキノクシ 五十八

橡子ドングリ 五十四

柘榴ザクロ 五十五

金橘キンカン 五十五

小柚コユ 五十六

菓クノミ 五十六

古今俳諧明題集秋部

六月立焠

年法ウメの喜ウメけウメの喜ウメさウメ志ウメ焠ウメ 凉ウメ備ウメ

おウメしウメけウメの喜ウメハウメ入ウメりウメの喜ウメさウメ志ウメ焠ウメ 全ウメ

けウメ月ウメの喜ウメはウメもウメりウメてウメあウメつウメさウメりウメ焠ウメ 全ウメ

隣ウメりウメの喜ウメもウメりウメてウメあウメつウメさウメりウメ焠ウメ 京ウメ巴ウメ白ウメ

焠ウメの喜ウメもウメりウメてウメあウメつウメさウメりウメ焠ウメ ナカウメコウメ 青ウメ蓋ウメ

初焠ウメ 大ウメの喜ウメありウメ

大ウメの喜ウメの喜ウメはウメもウメりウメてウメあウメつウメさウメりウメ焠ウメ 凉ウメ兔ウメ

湯ウメの喜ウメもウメりウメてウメあウメつウメさウメりウメ焠ウメ 麥ウメ林ウメ



控オシいもくくサのちハ編カタ打戸  
 吹フク落ルくハ雲クモにハおアあアるハ片カもモ船  
 舟フネきキのシやハ櫻ウツギをミまスきキよヨ里サト  
 相アハのウ葉ハはハ粘ネリ藏シくハ酒サケやハまスきキまス酒  
ヒヤクナリ浦ウラ煮ニぬルらハにハまスりリらハさハのハ船  
 際サヘのウ名ナはハ一ヒト色イロみメえスくハおアもモ秋  
 痛イタくハもモかカりリ添ソやハらハはハはハ味  
ホウニチ徑ミチはハ地チ津ツくハまスけキやハおアのハ船  
 大オホ河カヘにもモ一ヒト葉ハのウびビやハおアのハ船  
 拾シホふフりリとト油アビくハもモさサるルらハおアもモ船

凉スズシ代カタ 全タビ 李リ北キョク  
 關カン 北キョク 如ニ岱タイ 作サク至ト  
 紫ムラサキ花ハナ 可カ 卿ケイ 伊イ勢セイ 浪ナミ  
 其ソノ 河カハ 同ドウ 已イ 塚ツツミ

愈トクきキもモ伊イひヒとト火カくクおアもモ秋  
 船フネちチのハやハ船フネのウ内ウチへヘ入イらラ  
サカヤキ月ツキ影カゲをシ刺サまスまスにハりリまスおアのハ船  
 初ハツメ船フネはハおアひヒくク船フネやハ枝エダ橋ハシのウ音ネ  
 おオしシらラえエぬヌやハにハもモあアるルおアもモ味  
 何ナニ性セイもモまマ卦ハにハ入イらラるルおアもモ船  
 こコくク馬ウマもモらラぶブ水ミヅもモしシけケさサはハあアまマ味  
 運ウンのハ風カゼふフれレおオはハもモさサるルらラらラ船  
 夏ナツのハ帆フネもモ一ヒト合アヒ城シロ舟フネやハさサはハ船  
 瀛オウキのハ帆フネもモ一ヒト合アヒ城シロ舟フネやハさサはハ船  
 夕ツキらラしシらラもモあアまマ味

同ドウ 百ヒャク川カハ 同ドウ 山ヤマ 畔パン 古コ  
 江エ 采サイ 鳳ホウ 江エ 戸コ 鳳ホウ  
 布フ 川カハ 上カミ 野ノ 上カミ 野ノ 上カミ 野ノ  
 胡コ 曉キョウ 上カミ 野ノ 上カミ 野ノ 上カミ 野ノ  
 江エ 雨アメ 篁ホウ 江エ 正セイ 綱カウ  
 凉スズシ 伊イ 山ヤマ 凉スズシ 伊イ 山ヤマ



七夕セキ

紅きさきりどせや星の別きよき  
 希因  
 勢やおのがらひハハハハ  
 希因  
 親のあはれこころや  
 涼休  
 星の恋ん何よりあハた  
 全  
 言はまあえく川あり星の恋  
 雲郎  
 象牛に寄つてハ水は星は恋  
 水  
 そ乃河で硯あひね星のあひ  
 玉負  
 おりよこ人にもせく星は  
 一知  
 牛で来は氣も後を星の恋  
 全

七夕雨のあめ

素牛の傘をがめてや橋をく  
 支考  
 天園や雨にふそく二のほ  
 涼休

銀河あまの

さいせいのあはれにさあまのかハ  
 其角  
 徴くさいいねハなが歩あ東は下波  
 鬼士  
 あ波人にせんト飲ませ下の河  
 珈味  
 世にた水よりさぬ水や下のうも  
 梅路  
 飛つ星の使ハなげハ海をかは  
 青藍



糸屋棟をくぐりゆく〜下る河  
起波  
宿波〜〜〜出て出〜り天の河  
多破  
地に疾流橋の比羽矣やあまはかく  
久橋  
さう流り或早をとおほさよ流  
凍浦

七夕鞠 おちせき  
斜レ家鞠の衣ぬき〜やレ貸小袖  
湯か敷  
織女をもてきえもゆる〜鞠はき  
呉に

文殊會 モンジュエ  
又殊と云の嘗も也や流〜半に来  
末  
仙降

文殊今や意に果さ思ハか〜  
碓津伊丹  
鬼貫

清水寺千日詣 きよみづのちひら

おき〜ひのあでふ日ま〜で〜神  
涼体  
は流子よは振を屋ツ〜  
風之

靈祭 つたり

糸流しゆく日の短はよ果まはけり  
涼体  
是つ多〜ニ際ヲ駒コや瓜ウを〜  
全  
靈柳や煙せむか〜ニまは〜げ  
全  
好おハ音〜ニたまは〜つり  
全



古今集卷之三

蓮池にくはけりや靈 糸 古由  
 冥柳や杉ハかざれど水々々 平胡  
 月に見えぬこのいそがし 糸 麦林  
 冥糸皆さし衣にけりハ 野披  
 待てむ来報降候ありけたまはつ 希因  
 海の日は志ほこむ侍や冥まは 桐原  
 今起る踊ぬ糸や多末は 双飛  
 糸まのりぬさくりや 靈まつり 三四坊  
 物まハ 帷さあ 荒 たまは 雲弁  
 土盤に味香のつく日や冥よつ 吟詩  
 西行よ今現り老母や冥はつ 一歳

赤しらへと海の家や多末は 常陸古田 之六  
 水うけに壻ハ来にくり 靈まつり 李北

墓 糸 糸

冥糸の歌につくやはは 東起  
 上下はあふれつ 墓ま 糸 糸

生身 靈 糸

ちのより馬ささひや 生身 糸  
 生身 靈 糸

古今集卷之三



燈籠

天燈  
 谷くにあハ寺あて言  
 山寺ハ吊桶も言  
 あげく々々暗あはる  
 又ハ空によめ  
 消小あさる  
 葉松樹に突のい  
 出逆旅婢女  
 ろりまのい人  
 茅相を静めに昇  
 水くははま女  
 江夫  
 一氣  
 艸鬼  
 楚雀  
 斗  
 州羽  
 凉宇  
 去路  
 画洲  
 日懸

踊り

をどり子や歌のふゆを度げ  
 お捜さうちに文ゆく踊  
 白曉の星見え涼むをど  
 何ふくくどほし思ふを  
 海に來る神めの志水ぬ  
 何ハ今あく意海をど  
 お常る神子ハ見て  
 核好きのあそびつ  
 飛ぶあびる後を見せ  
 禹洗  
 汶上  
 南斗  
 東起  
 以言  
 柵波  
 榎雪  
 五綾  
 其梅



松板にこそまゝありせしをどりて  
 船しい船にるるもどりをとて  
 世は時後<sup>シヤウジ</sup>撫へるもどりの乎登里は  
 のを十<sup>ツ</sup>のけりもきゆくをどりて  
 沼<sup>ヌマ</sup>ぬく目にも身ふもなどりて  
 角<sup>スモトリ</sup>能人の骨もやりゆく踊るを  
 ぬ衣をりゆくのもどり踊る那  
 系<sup>ケイ</sup>結ゆき髪を見にゆく踊る那  
 をどり子や板に後のうらもま  
 回しと志てハぬゆくをりう那  
 沔水  
 可卿  
 可由  
 樓川  
 兎士  
 雲所  
 一嵐  
 涼備  
 全

三井寺女詣 いおてらを  
人かまうで  
 三井寺中<sup>ミヰイデ</sup>女も茶むくぢ  
 波と

花炮びえか  
 いろくのまを見てぬく茶炮小  
 身ぬさぐ人もまゝ茶炮小  
 襟くの麻<sup>アサ</sup>もりもまゝ茶炮小  
 湯土の子はま<sup>マ</sup>て茶炮花火小  
 根にも<sup>ネ</sup>茶<sup>チ</sup>見えぬま<sup>マ</sup>びく  
 園にま<sup>マ</sup>をりも<sup>カ</sup>茶<sup>チ</sup>火<sup>ヒ</sup>か  
 千代  
 去路  
 阿波  
 野寺  
 萩丈  
 李郷



頌 入のり

つと入やまの蓋にひらちがひ  
はと入やまの門帷を揚るる  
つと入やまの御簾物も出ぬ  
入のり茶とりもあつる

笑林  
伊勢山田  
宗乙  
冠子  
赤良  
之梅

娘林葉入 あきのや  
ふいり

やぬりや踊侍妹にまゝ降起  
林葉入や木の石月もあつる

雲和  
鳥羽

送 家入 ぶやくの  
こねいり

家入や秀を睫にくひ志を  
日ハ西のけささにはさや一海の峯  
まの入や麻拾ふて林うつあ

汶上  
白水  
一嵐

残 暑 のこる  
あつさ

沼の部にまがひくさいは暑さ  
けら小のる歌あつさやけら一白  
持るゆゑ麻にゆきあつさる  
神沼の草もろゆるも暑さる  
川中にけらるの跡あつさる  
驚ハまがひ海一麻にけらる

素園  
胡周  
和鳴  
李趙  
一鼠  
梅路



葉は身もすくもあつさぬあつさか  
夏州の夜<sup>サカ</sup>ぐに海は河つさうか  
暮<sup>メカラ</sup>のよりうけくおほあはさか

経 壺  
一 鹿  
如 牛

露 つゆ

あつあや梅にえさすあつつの山  
かあや野さの露はくはくは  
土<sup>カハラケシ</sup>盤<sup>ハ</sup>除<sup>ヘ</sup>あまんとくはくはくは  
くはあや葛に雪が春くはくは  
露の色はくはくはくはくはくは  
あつあつ月と来りて半あつあ

荷 兮  
李 北  
左 祇  
正 俊  
西 羊

あつあや梅に月日をまかへ歌

上 柳 出

霧 ぎり

あつあや梅はくはくはくはくは  
あつあや梅はくはくはくはくは  
あつあや梅はくはくはくはくは  
あつあや梅はくはくはくはくは

文 里  
下 有

熱 閃 び

あつあや梅はくはくはくはくは  
あつあや梅はくはくはくはくは  
あつあや梅はくはくはくはくは  
あつあや梅はくはくはくはくは

結 雨  
閑 上



いなづまの雲をぬくや水をと  
いろづまや鏡の河を流めくは  
いろづまや後のハハテも見えくは  
熱閃や雲にハハテも見えくは  
いろづまや紙ハハテ板ハハテを流めくは  
いなづまの本ハハテは見えくは  
いろづまや野中の松に影あり  
熱閃の輪カキやちがふはあり  
いろづまや座カキのふひくは  
いなづまや因カキまカキはあり  
いろづまやあふないのカキを地にカキは

素園  
目輪  
拍文  
煉午  
加賀  
一  
倍濃上田  
雨石  
多破  
多  
考  
也  
一  
黄

熱閃や雲カキはあり  
いろづまや雲のカキはあり  
いなづまや依カキにあり  
熱閃や小強のカキにあり

涼体  
芭蕉  
上毛  
燕山  
青藍

初暴風ハハテ

角カキ能くカキはあり  
いろづまのカキはあり  
砂カキ楡のカキはあり

梅路  
百夫  
芭蕉

煉風ハハテ



古今事類通考卷之三

あつくく日ハつるも海のは  
 海伊や静鈴をぬみをはく  
 故のには列をくまあり海をほ  
 村ヒツギに於目のつくやのさけうせ  
 毛粟イガツリのわらうやうあはは歩  
 葛のよふれくそまほや海のは  
 海伊やまの冷ま馬を繁  
 海伊やまのびの敷をあはは  
 相の葉をえハ目けく海のは  
 海伊やまのけりまは  
 海伊やまぬ色意もくまは

芭蕉  
 涼帯  
 全  
 全  
 六柿  
 故周  
 希因  
 等白  
 如丹  
 生丁  
 斗光

西の傍馬スモトリ座やあまふ下歩  
 以折クノくノに教や海のは  
 輪クノ網ノにむまひわがけ海を

下スモトリ水  
 佐使サシを  
 文フミ量  
 武タケ西  
 文フミ量

角ツノ 角ツノ  
 皆カ意イのあはカ意イハ見ミハ見ミ角ツノ 角ツノ  
 出デ海ウミさサびビに負ネくクまマ角ツノカカハ  
 帯オビにすスくク野ノ菊キクのまマ角ツノ 角ツノカカハ  
 角ツノカカや月ツキも偏ヒナくク西セのかカ  
 人ヒトあアは中ナカを起タくク角ツノカカクク神カミ

大和大和和和本本  
 涼涼帯帯  
 扇扇計計  
 左左明明  
 吐吐雲雲  
 玄玄芝芝  
 眼眼石石

古今事類通考卷之三

〇廿一



南北の人ハちいさき角カハ

鳥谷

秋鷹

あきの

鶺鴒ヤトリをやもせんく鷹はまゝ水水

千那

秋螢

あきの

秋螢につけく滅けく不た消く香

鳳毛

低く飛ぶ草や因縁屋くうう

五仙

蛛蝶

あきの

蝶くや今産海ハ草のい後

東奴

秋蚊

あきの

蚊の蚊は柱まづくに管を中

石

蚊の蚊や麻にも中く身へ来れ

雨石

茅蜩

あきの

日くくや持く屋ても草草の日

丹波貝玉

ひくくやまき人の要瓜もさ

涼備

茅畑や松づくに徒

艾柳

おくくや西へ伽藍の光侍時

杉路

ひくくや忍く寺ハ詩も香

涼宇

古今和歌集



日くくくやうふの志すひは一里塚  
 ひくらくやう鏡まきの侍表の歌  
 比久屋之や元は白濁のせす侍表  
 むく死しや元はそす侍表

蜻蛉和歌

つるくの一時やまむむむが  
 遠山や蜻蛉卒ゆさつひうへ歌  
 蜻蛉や鳴くぬかりにほめき  
 岸くま侍水に傾睡らんぼふ  
 準繩を見まして侍侍蜻蛉

上毛の橋

歌石

乙歌

五表

全橋

後通

李四

凍体

蜻蛉や花をま擬に橋の  
 らんらんや志すいおけの破去海之  
 道の美にまらうくまの蜻蛉  
 鶺鴒の同をたうくむむがう神  
 蜻蛉やの小もせぬを乾く侍侍  
 舟くま尻ごまて水侍まほふ  
 橋の縁に目の垂く蜻蛉うを  
 蜻蛉は徒るり侍や後しうの  
 眺の紙松に書く蜻蛉うを  
 びまびめたる水くおけく蜻蛉  
 おのが月におおあけくらんが水

橋飛

全和

大代

三橋

高表

斗分

一承

歌文

百弁

歌石



古今事考類聚卷之三

白<sup>シカク</sup>明<sup>カク</sup>にひより又つぎくらん<sup>ガク</sup>が<sup>ガク</sup>か

懐<sup>ハチ</sup>たのおろしくゆくや<sup>ツルベ</sup>懐<sup>ハチ</sup>棒<sup>ツルベ</sup>、<sup>上毛藩</sup>京<sup>宇</sup>宇

進<sup>ハチ</sup>ひ子の<sup>ガク</sup>懐<sup>ガク</sup>ひひ小<sup>ガク</sup>事<sup>ガク</sup>信<sup>ガク</sup>懐<sup>ガク</sup>た<sup>ガク</sup>う<sup>ガク</sup>分<sup>ガク</sup>

業<sup>ガク</sup>州<sup>ガク</sup>へ<sup>ガク</sup>懸<sup>ガク</sup>懸<sup>ガク</sup>く<sup>ガク</sup>委<sup>ガク</sup>ふ<sup>ガク</sup>と<sup>ガク</sup>む<sup>ガク</sup>が<sup>ガク</sup>小<sup>ガク</sup>、<sup>上毛藩</sup>免<sup>洲</sup>洲

阜<sup>ハチ</sup>蝨<sup>ハチ</sup>い<sup>ハチ</sup>か

縦<sup>ハチ</sup>横<sup>ハチ</sup>にいそぐま<sup>ハチ</sup>ー<sup>ハチ</sup>い<sup>ハチ</sup>ま<sup>ハチ</sup>う<sup>ハチ</sup>か<sup>ハチ</sup>、<sup>上毛藩</sup>京<sup>宇</sup>宇

病<sup>ハチ</sup>亦<sup>ハチ</sup>く<sup>ハチ</sup>困<sup>ハチ</sup>懸<sup>ハチ</sup>ぶ<sup>ハチ</sup>え<sup>ハチ</sup>懸<sup>ハチ</sup>いな<sup>ハチ</sup>ご<sup>ハチ</sup>う<sup>ハチ</sup>な<sup>ハチ</sup>、<sup>上毛藩</sup>一<sup>湖</sup>湖

く<sup>ハチ</sup>ま<sup>ハチ</sup>ぐ<sup>ハチ</sup>いて<sup>ハチ</sup>懐<sup>ハチ</sup>の<sup>ハチ</sup>起<sup>ハチ</sup>あ<sup>ハチ</sup>が<sup>ハチ</sup>信<sup>ハチ</sup>阜<sup>ハチ</sup>蝨<sup>ハチ</sup>小<sup>ハチ</sup>、<sup>上毛藩</sup>洞<sup>居</sup>居

懸<sup>ハチ</sup>蜂<sup>ハチ</sup>り<sup>ハチ</sup>を<sup>ハチ</sup>

字<sup>ハチ</sup>り<sup>ハチ</sup>小<sup>ハチ</sup>く<sup>ハチ</sup>穴<sup>ハチ</sup>にも<sup>ハチ</sup>事<sup>ハチ</sup>比<sup>ハチ</sup>ま<sup>ハチ</sup>り<sup>ハチ</sup>く<sup>ハチ</sup>を<sup>ハチ</sup>、<sup>上毛藩</sup>丈<sup>州</sup>州

屏<sup>ハチ</sup>隔<sup>ハチ</sup>も<sup>ハチ</sup>物<sup>ハチ</sup>入<sup>ハチ</sup>ら<sup>ハチ</sup>く<sup>ハチ</sup>所<sup>ハチ</sup>更<sup>ハチ</sup>起<sup>ハチ</sup>ま<sup>ハチ</sup>く<sup>ハチ</sup>以<sup>ハチ</sup>、<sup>上毛藩</sup>希<sup>因</sup>因

あ<sup>ハチ</sup>そ<sup>ハチ</sup>う<sup>ハチ</sup>が<sup>ハチ</sup>丹<sup>ハチ</sup>子<sup>ハチ</sup>へ<sup>ハチ</sup>本<sup>ハチ</sup>更<sup>ハチ</sup>り<sup>ハチ</sup>ま<sup>ハチ</sup>り<sup>ハチ</sup>く<sup>ハチ</sup>を<sup>ハチ</sup>、<sup>上毛藩</sup>去<sup>路</sup>路

着<sup>ハチ</sup>に<sup>ハチ</sup>ま<sup>ハチ</sup>く<sup>ハチ</sup>古<sup>ハチ</sup>び<sup>ハチ</sup>や<sup>ハチ</sup>つ<sup>ハチ</sup>ま<sup>ハチ</sup>く<sup>ハチ</sup>懐<sup>ハチ</sup>棒<sup>ハチ</sup>、<sup>上毛藩</sup>松<sup>花堂</sup>堂

に<sup>ハチ</sup>し<sup>ハチ</sup>ま<sup>ハチ</sup>本<sup>ハチ</sup>も<sup>ハチ</sup>あ<sup>ハチ</sup>く<sup>ハチ</sup>以<sup>ハチ</sup>信<sup>ハチ</sup>や<sup>ハチ</sup>懐<sup>ハチ</sup>棒<sup>ハチ</sup>、<sup>上毛藩</sup>凉<sup>帝</sup>帝

者<sup>ハチ</sup>ひ<sup>ハチ</sup>ま<sup>ハチ</sup>の<sup>ハチ</sup>ま<sup>ハチ</sup>く<sup>ハチ</sup>も<sup>ハチ</sup>屏<sup>ハチ</sup>く<sup>ハチ</sup>懐<sup>ハチ</sup>棒<sup>ハチ</sup>、<sup>上毛藩</sup>全<sup>水</sup>水

る<sup>ハチ</sup>に<sup>ハチ</sup>し<sup>ハチ</sup>く<sup>ハチ</sup>ま<sup>ハチ</sup>く<sup>ハチ</sup>懐<sup>ハチ</sup>棒<sup>ハチ</sup>、<sup>上毛藩</sup>和<sup>水</sup>水

茶<sup>ハチ</sup>も<sup>ハチ</sup>り<sup>ハチ</sup>や<sup>ハチ</sup>壁<sup>ハチ</sup>の<sup>ハチ</sup>ま<sup>ハチ</sup>く<sup>ハチ</sup>以<sup>ハチ</sup>信<sup>ハチ</sup>く<sup>ハチ</sup>を<sup>ハチ</sup>、<sup>上毛藩</sup>青<sup>蓋</sup>蓋

屏<sup>ハチ</sup>圖<sup>ハチ</sup>に<sup>ハチ</sup>目<sup>ハチ</sup>の<sup>ハチ</sup>あ<sup>ハチ</sup>く<sup>ハチ</sup>委<sup>ハチ</sup>や<sup>ハチ</sup>ま<sup>ハチ</sup>り<sup>ハチ</sup>く<sup>ハチ</sup>以<sup>ハチ</sup>、<sup>上毛藩</sup>一<sup>原</sup>原

あ<sup>ハチ</sup>ま<sup>ハチ</sup>び<sup>ハチ</sup>い<sup>ハチ</sup>く<sup>ハチ</sup>信<sup>ハチ</sup>信<sup>ハチ</sup>や<sup>ハチ</sup>多<sup>ハチ</sup>く<sup>ハチ</sup>懐<sup>ハチ</sup>棒<sup>ハチ</sup>、<sup>上毛藩</sup>全<sup>原</sup>原

押<sup>ハチ</sup>お<sup>ハチ</sup>り<sup>ハチ</sup>も<sup>ハチ</sup>歯<sup>ハチ</sup>に<sup>ハチ</sup>ま<sup>ハチ</sup>び<sup>ハチ</sup>ま<sup>ハチ</sup>や<sup>ハチ</sup>懐<sup>ハチ</sup>棒<sup>ハチ</sup>、<sup>上毛藩</sup>杉<sup>町</sup>町

古今事考類聚卷之三

〇



鶴のさざけりけりやささくも  
雄カラス小漏やたぐえくこあさくは  
床く透の下に物あささりくも  
糸を吐係あささりくは  
青園をか出さ出にりりあさくも  
立向に暮の志づくや隠障  
振く月侍松は中やささりくも

武村岩  
上毛系は  
雨竹  
素竹箨  
太竹茂  
下竹茂  
綾女  
同  
旭路  
素輪

紡績娘

まつむしやいらく冷ふても糸のあ  
ゆいむしやあのか頂タツガの粒さびく

まに  
話  
は  
州  
坂

金鐘兒

もどむしや清池のくへ清にゆく

琴詩

又都和牟之

漢名  
未詳

ひりりてやさけんやくしり口

再機

獨角仙

系法ぐらんとづしやかぬく生

東起

天牛

アハミ



古詩集卷之三  
夏柳 翠さうりむしの 徒く居侍

夏柳 木因

奥 むー

重 奈や野をこりてけく看に重  
ああ〜や切〜ハ紫く中の〜

上毛古海 戸外 負至

牽牛花 があさ

あけうかや大工の 殊水はどお侍  
あさうかや 明るに 祇の 見ゆ 縁中  
あさうかや おのが 蔓〜 地 縁に 登く  
あさうかや 野の た〜 橋〜 登く

希因 全 素因 全

何ちがぬ 志花や 本位の ねそろ〜 記  
安た可保 戸 縁に 毛〜 柳よ〜  
船が 不や 庵に 裁と 縁 向〜 登る〜  
何さう 何や 短い 衣〜 起る〜  
あさが ぼや 袋 遠〜 寄 白〜  
船が ぼや 見て 居侍 中に 船がよ 侍  
と 象ハ 毛〜 船が 不や 馬 本〜 了  
あさが 不や 棋 盤に 毛〜 悔も 惜え じ  
幸 中 花や 松の 鏡 毛〜 いそ〜 記  
船が 不や 毛〜 け 舟も 懐〜  
あさが 不や 人 抱いり ぬ 秋〜 居侍

全 一 紅 有 蕙 涼 備 全 兔 士 榊 居 可 樂 一 象 以 秀 深 魚



敗醬 をこか

孫人にまかさうほやをみかへー  
こふくハ先へまハほやをこかへー  
ひくへんのおかーをこかへー  
い赤色に野平かこふけをみかへー  
に閉く美りぬ花やをみかへー  
証伊のあゆめくをこかへー  
素止子くくいとぬ惑を敗醬  
刈子姑ハ姑ぞとひやをこかへー  
稜くの怪や押くをこかへー

加賀 封ト  
希因  
凉坼  
全  
起波  
後川  
沼半  
子氷  
文袋

白花敗醬 をこか

あちくく稜の家ウハキ氣やをぬへー  
あちくくびく癖もついなをこかへー  
以たてーまのね女や平英素まこ  
萩枝ハギ枝ナニひくやを美那美く  
こふのありけりけをみかへー

祇棠  
凉洲  
以秀  
西羊  
麥林

鹿塚にこがくくまこくをこかへー  
おやこちくつハ首字うふ花敗醬  
山のくをあげにハくくをこかへー  
をこかへー花明にひくくをみかへー

陸奥海防 猪白  
杜門  
祇十  
似牛



古今行次月題集卷之三

蘭 うぶぢは

草ハ<sup>ハ</sup><sub>ハ</sub><sup>ハ</sup><sub>ハ</sub> 續<sup>ヒ</sup>く中に ぬら<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>は 東奴

蕙蘭 らん

蕙<sup>ア</sup>の<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup><sub>ハ</sub> 尻<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>遠<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup> 中<sup>ハ</sup> 蕙<sup>ハ</sup>花<sup>ハ</sup> 涼<sup>ハ</sup> 依<sup>ハ</sup> 琴<sup>ハ</sup> 時<sup>ハ</sup>

胡枝花 はぎの

小<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>子<sup>ハ</sup>刈<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup> 阿<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>子<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup> 中<sup>ハ</sup> 枝<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup> 川<sup>ハ</sup> 夕<sup>ハ</sup>

上毛板鼻

如巢

秋海棠 シウカイソウ

秋海棠<sup>ハ</sup> 西<sup>ハ</sup> 瓜<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>いろ<sup>ハ</sup>に 霞<sup>ハ</sup> サキ 芭蕉 ははばやし

旋覆花 せんぷく

を<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup> 金<sup>ハ</sup>や 子ナレカヅラ 糸<sup>ハ</sup> 練<sup>ハ</sup>子<sup>ハ</sup>を<sup>ハ</sup>ひ<sup>ハ</sup>さ<sup>ハ</sup>ち<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup> 麦<sup>ハ</sup> 風<sup>ハ</sup> 百<sup>ハ</sup> 尋<sup>ハ</sup>

桔梗 ききョウ

夕<sup>ハ</sup> 如<sup>ハ</sup>や 桔<sup>ハ</sup> 梗<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>中<sup>ハ</sup>へ 消<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup> 伊<sup>ハ</sup>く ほほれを 如<sup>ハ</sup> 芥<sup>ハ</sup>

古今行次月題集卷之三



古今竹枝月道集卷之三

五六日ぬくく雨くこさやううあ  
はと  
刈<sup>クサカリ</sup>草子に段の出ま<sup>テ</sup>居格杖小  
佃介

剪秋羅 せんを

大は後におかい色し喜<sup>ケ</sup>居<sup>ル</sup>居  
子

馬唐 まもこまくさ  
ままいくさ

ま<sup>マ</sup>伊<sup>イ</sup>ー<sup>ー</sup>ま<sup>マ</sup>り<sup>リ</sup>り<sup>リ</sup>草<sup>クサ</sup>草<sup>クサ</sup>花<sup>ハナ</sup>の<sup>ノ</sup>ほ<sup>ホ</sup>ゆ  
ま<sup>マ</sup>ま<sup>マ</sup>ひ<sup>ヒ</sup>く<sup>ク</sup>さ<sup>サ</sup>見<sup>ミ</sup>く<sup>ク</sup>の<sup>ノ</sup>ほ<sup>ホ</sup>の<sup>ノ</sup>け<sup>ケ</sup>に<sup>ニ</sup>入<sup>イ</sup>居<sup>ル</sup>  
芭蕉 一 原

女青 めあいに  
あかい

うぐ<sup>ー</sup>こ<sup>コ</sup>は<sup>ハ</sup>後<sup>アト</sup>心<sup>ココロ</sup>や<sup>ヤ</sup>ま<sup>マ</sup>い<sup>イ</sup>と<sup>ト</sup>ま<sup>マ</sup>れ  
秋<sup>アキ</sup>の<sup>ノ</sup>ま<sup>マ</sup>の<sup>ノ</sup>野<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>糸<sup>イト</sup>や<sup>ヤ</sup>な<sup>ナ</sup>い<sup>イ</sup>とは<sup>ハ</sup>あ  
依<sup>ヨ</sup>雨<sup>アメ</sup>

野菊 のきく

小<sup>コ</sup>り<sup>リ</sup>や<sup>ヤ</sup>に<sup>ニ</sup>雞<sup>ニ</sup>思<sup>シ</sup>細<sup>ホソ</sup>ハ<sup>ハ</sup>老<sup>ヲ</sup>く<sup>ク</sup>野<sup>ノ</sup>菊<sup>ク</sup>々<sup>々</sup>を  
を<sup>ヲ</sup>ま<sup>マ</sup>の<sup>ノ</sup>れ<sup>レ</sup>つ<sup>ツ</sup>ま<sup>マ</sup>く<sup>ク</sup>ゆ<sup>ユ</sup>く<sup>ク</sup>野<sup>ノ</sup>菊<sup>ク</sup>々<sup>々</sup>を  
葉<sup>エハ</sup>跡<sup>ト</sup>は<sup>ハ</sup>糸<sup>イト</sup>に<sup>ニ</sup>積<sup>ツ</sup>海<sup>ウミ</sup>野<sup>ノ</sup>菊<sup>ク</sup>々<sup>々</sup>を  
谷<sup>ヤ</sup>多<sup>タ</sup>に<sup>ニ</sup>碎<sup>ツ</sup>小<sup>コ</sup>河<sup>カ</sup>沿<sup>ヰ</sup>も<sup>モ</sup>く<sup>ク</sup>野<sup>ノ</sup>菊<sup>ク</sup>々<sup>々</sup>を  
柳<sup>ユ</sup>居<sup>ル</sup> 阿<sup>ア</sup>僧<sup>ソウ</sup> 琴<sup>キン</sup>詩<sup>シ</sup> 十<sup>ジュウ</sup>字<sup>ジ</sup>

鬱金花 うつぎな

鬱<sup>ウツ</sup>金<sup>キン</sup>花<sup>ハナ</sup>ん<sup>ン</sup>こ  
丹<sup>ニ</sup>波<sup>ハ</sup>柏<sup>ハク</sup>原<sup>ゲン</sup>  
院<sup>エン</sup>

古今竹枝月道集卷之三



古今昔歌明題集卷之三

雀 麥 かや

実う花う刈くもあ〜び雀麦ハ

此行言即  
本含楚 仙

芭 蕉 をせ

寒山に 續ホトい〜見せ海を歩路小  
放泰の久い〜くむせをう那  
いろ〜に日のごき〜色芭蕉小  
長あ〜は刻まぶぬ乾をせをう那  
切〜の久もたぬ波世平う那

仙臺 桐原  
江戸 白英  
上毛前橋 來川  
全 吹雁  
桃岸

菘 とぎ

沼水のお〜ても菘法ロイ材言〜

長法 如行

稻 花 い糸の  
むか

竹〜退く花の伊や稲も花 殊午

早 稻 こせ

涼〜さや子稻の多ひたを左り 麥林  
早稻の多や蟹踏りけ乾磯はさ 支考

殊 紫 茄 あまきか

古今昔歌明題集卷之三



古今事類通考卷之三

日く後こはまどくも新どは茶  
かに名のつけやうくくはなまじ

可津羅  
超口

西瓜

つめア〜ハ〜海のまゆぬ西瓜  
宛特橋にをさ〜るま〜西瓜

珈凉  
兔士

冬瓜

あ〜瓜戸二百十日もおと強〜  
かもしアやいつ〜をくばりんま  
あ瓜やまハ海ちす〜た〜瓜

維鳩  
禹貢  
烏林

うも〜アや圃の形に種ははく

江水羅

壺蘆實

ゆふがや海ハ海にの〜水  
壺まゑや何〜海ま〜も名ハつ〜  
ゆふがや尻にぬま〜おきて振

麥林  
几山  
楚岫

絲瓜

日の絲をさま〜つ〜入色海絲瓜  
網は目に水も〜〜〜海らほ水

東起  
田代園  
笑去

古今事類通考卷之三



刀豆 よかめ

夕下豆やひとの種に満サレる水水

下孤帆

燈 菟州 づふし

夕下つとや映カムは思カの口小小つる侍

一音

夕下花花や空を志志水水火火とり重  
夕下は糸や空も明明りを提提てあ侍

市雪 阿坡

蕃椒 らうが

目に海を志志むハ是是こそか

女大菘 祇松

垣根にもくもををこそ

女紫 紅

一一つと文文ゆく海海やや~~~~~  
硝子硝子へ入入ても見見侍侍やや~~~~~

貞丘 度江

桃 實 のこい

神ナリ実実の桃桃や三三葉葉児児にに見見せせるる侍侍

下野之利 谷水

毛 桃 けも

香香別別も知知く毛毛桃桃の老老にに夕夕

曾昌利

一 葉 ひと

夕夕はくくと地地にに花花くくをを一一葉葉か

京 江 棧

古今和歌集卷之三



古今片哥明題集卷之三

鷲の冠毛をかき保一葉ク那  
 子だけの月を落し一葉ク那  
 映陸社百ハサくひとたウ那  
 漢養社一ハハ清くハ一葉ク那  
 榴師の飛馬く結一葉ク那  
 打通工に席安せく一葉ク那  
 鷲くぬ人のて巻へひとえウ那  
 上弦の中ハ見くく巻とはウ那  
 安角カへ新目のうえ保一葉ク那

白枝  
 其由  
 崇江  
 大和柳本  
 孝文  
 双飛  
 也  
 京  
 烏文  
 仙衣  
 挂露

散柳 ちるや

松底に大工の巻や巻あや成  
 うぐいさも展ねうらうらと葉柳  
 ひぐしーのゆきやそのつや葉柳  
 と見祿を禱ハきくは散や多葉  
 新沢社美く枝保や散や多葉  
 路伊の新けりや多葉を葉

一葉  
 里郷  
 有英  
 尾張  
 千箱  
 深保  
 佐松本  
 白羽

木槿 けく

野立半葉あく志がむ木槿小  
 枝折しむ皮の板さぬむくちうあ  
 四五尺ぶあは原向木槿うあ

鬼士  
 涼備

古今片哥明題集卷之三



古今片歌明題集卷之三

極 捷徑 影の待すまけくむく歩水  
及くつゝを五ふぬむくげうあ

其葉 柳四 雲和

二百十日 にひやくとをう

柳 二百十日を定めり  
かりぬや二百十日の口もさみ

涼素 去路

八朔 ハハツク

ハ部中踊とをかりこす  
ハ部や養理に影出は梅の花

麥林 超波

ハ部中船の袴を何たろーき

依中光 衣言

焮釋奠 シヤクデン

吹くを浴や夜のあーい

其來也 其來梅也

焮彼岸 ヒガン

あさぐほとさるをたぐ彼者少  
新米は御よにとまろく彼者少

汶上 尾法也 病世

摺扇置 あかぶ

屋 のくひ 扇、那

入楚

古今片歌明題集卷之三



雁ひしの見定めて屋く廊々那  
とア、響く屋てもあゝぬあふぶ小  
一 嵐

子橋原

三日月 つき

さびしはは門に入りア三日は月  
まひあけくた枝まつふ家や三日の月  
是りは見えはらし三日は月  
見届けく本橋に入敷や三日は月  
はし先く瀬着ハ言く三日は月  
本のるくく危の身やみりはつき  
去路

妻林

希因

一 嵐

洗音

其梅

司召 つつき  
みの屋ハ橋女ははかさ先く  
此君

月 つき

あう水く粗の歯ふく家ま月  
月子く指ハ雨を拵かぐ  
あを吹け月のはくはあく山  
其角  
芭蕉  
紹巴

名月 つつき

庭の家をふ照やしくふの月  
名月や文く舞はのあひさ  
全 琴林



名月やのほいすに行あ〜  
 名月の舟や何そもあ〜  
 名月や伊さ〜見〜  
 博於の〜にあ〜  
 東〜あぶな〜橋や〜  
 名月や恋〜早ハ〜  
 名月や人に麻〜  
 作向に麻〜不〜  
 名月や信を馬名〜  
 名月や信に何〜  
 麻俗に〜

素因  
 全  
 希因  
 全  
 涼備  
 全  
 全  
 全  
 全  
 大坂  
 全  
 梅路  
 全

とを見ぬ多々情さや〜  
 ニ夕〜ハ〜を〜  
 月見む〜と〜  
 五月雨に能〜  
 名月やこ〜  
 名月や名〜  
 新〜  
 名月や児の〜  
 名月や海〜  
 名月や尋〜  
 名月や扇に〜

温故  
 祿  
 平  
 紀  
 龍  
 在  
 再  
 大  
 舊  
 一  
 西

古今月詠集卷之三



名月や硯をむめは楳ハハ  
名月や雪おろくぬく海植守  
早ひよの火徳に持く月見小  
名月や起<sup>タツナミ</sup>波くハ元のくち  
名月や楳に船のふはまを  
飛ぶよのやうにたまたま月見小  
名月や西<sup>ソラ</sup>水を解<sup>トキ</sup>散<sup>チ</sup>は<sup>ハ</sup>波<sup>ナミ</sup>の海  
名月や虚<sup>ソラ</sup>表も<sup>ミ</sup>根<sup>ネ</sup>に<sup>ニ</sup>く<sup>ク</sup>り<sup>リ</sup>も  
あさぐさ法<sup>ホウ</sup>石<sup>イシ</sup>に<sup>ニ</sup>ま<sup>マ</sup>ま<sup>マ</sup>や<sup>ヤ</sup>り<sup>リ</sup>ふ<sup>フ</sup>の<sup>ノ</sup>つ<sup>ツ</sup>き  
名月や濁<sup>ナ</sup>ま<sup>マ</sup>は<sup>ハ</sup>る<sup>ル</sup>よ<sup>ヨ</sup>の<sup>ノ</sup>ハ<sup>ハ</sup>表<sup>ヒ</sup>と<sup>ト</sup>本<sup>ホ</sup>を  
用<sup>ヨウ</sup>山の<sup>ノ</sup>楳<sup>ノ</sup>く<sup>ク</sup>、<sup>ク</sup>雪<sup>ユキ</sup>何<sup>ナニ</sup>も<sup>モ</sup>く<sup>ク</sup>ふ<sup>フ</sup>の<sup>ノ</sup>つ<sup>ツ</sup>き

言蓋  
伊勢四日市  
宇種  
日  
宜角  
甲斐  
泉布  
萩丈  
伊勢津  
二日坊  
代法岩村田  
鶴山  
蕨帆  
白杖  
とに大は  
雲裡  
文京

名月や雪おろくぬく海植守  
早ひよの火徳に持く月見小  
名月や起<sup>タツナミ</sup>波くハ元のくち  
名月や楳に船のふはまを  
飛ぶよのやうにたまたま月見小  
名月や西<sup>ソラ</sup>水を解<sup>トキ</sup>散<sup>チ</sup>は<sup>ハ</sup>波<sup>ナミ</sup>の海  
名月や虚<sup>ソラ</sup>表も<sup>ミ</sup>根<sup>ネ</sup>に<sup>ニ</sup>く<sup>ク</sup>り<sup>リ</sup>も  
あさぐさ法<sup>ホウ</sup>石<sup>イシ</sup>に<sup>ニ</sup>ま<sup>マ</sup>ま<sup>マ</sup>や<sup>ヤ</sup>り<sup>リ</sup>ふ<sup>フ</sup>の<sup>ノ</sup>つ<sup>ツ</sup>き  
名月や濁<sup>ナ</sup>ま<sup>マ</sup>は<sup>ハ</sup>る<sup>ル</sup>よ<sup>ヨ</sup>の<sup>ノ</sup>ハ<sup>ハ</sup>表<sup>ヒ</sup>と<sup>ト</sup>本<sup>ホ</sup>を  
用<sup>ヨウ</sup>山の<sup>ノ</sup>楳<sup>ノ</sup>く<sup>ク</sup>、<sup>ク</sup>雪<sup>ユキ</sup>何<sup>ナニ</sup>も<sup>モ</sup>く<sup>ク</sup>ふ<sup>フ</sup>の<sup>ノ</sup>つ<sup>ツ</sup>き

乙 珠  
加 涼  
江 文  
六 柿  
麦 舟  
上毛言味  
女さよ  
栢 沢  
下 登  
お持小四系  
麦 由  
芭 蕉



古今所記集卷之三

言をりく人を休め侍月見ハ全

十五夜雨 おろこやのあめ

名月や寝云へ侍らに暮花下 ハナクモリ  
雨雲小夜逐那やりのついで 炭焼 涼休

ハシロモヤウエ  
放生會

ヤマガラ  
船棹者や蒸雲すべつちり放生會  
人列く桑山子へりや放生會 涼休  
舎懸く結に麻屋思や放生會 洗雪  
戸袋へこまひハ事さうばくさく急 去路

駒牽并駒迎こまむらへ

むさし野へ能くそくへりりよの駒  
駒牽やちの侍紫馬に寄つて  
箱ひくと袂文自慢やりかまあま  
とつけも侍野とハイとけりし侍駒  
駒ひきや牛を逐ぬく駒けり  
駒牽や言々を駿を更りし  
弱きか人むらさしまむらへ  
駒むらへばかけも年には  
くへは板東ありやこほむらへ

涼休 攝津伊丹 蜂房 江戸 白川 復雪 水 涼休 雀子 武 色

古今所記集卷之三



駒・まややそ〜月も肥くゆく

禹貢

すの梅く舞舞見侍や弱き

百夫

驪コラジロに月ち〜く〜ふはむ〜

紫藤江戸

授テウチン焼小珠上の流や駒む〜

許六

初潮はつ

神流や着さぬ水もつら〜ゆく

古由

神流や細い糸に帆しけ糸

嵐蘭江戸

くし志かや鶴の尾はぬまで

藍水佐原

放水おこ

秋家の流るる流消〜り秋

涼備

そ〜るる流るる流るる

雲郎

飛越〜居早ハ見え〜り

破了

清子流〜雨を〜りや

六柿

る見〜回毎の周や

曲阿

お〜水極まはたハテ竟も〜

可昇

案山子か

奥州の道々〜侍替は案山子

史丸

冷〜の中に枯せゆく案山子

祇亟

そ〜ひいよ水ハを〜ふぞか〜

加賀金沢 三十六



結ヒ子ムシとコおミふク依ヒ素シ山シ子シ  
 零イ子コのシひクひク依ヒ素シ山シ子シ  
 吹フひク依ヒ素シ山シ子シ  
 物モノいクひク依ヒ素シ山シ子シ  
 百ヒとコ男ヲとコ依ヒ素シ山シ子シ  
 了シ医シ者ノ連シてシ依ヒ素シ山シ子シ

百道  
 青藍  
 凉休  
 全  
 鬼士  
 全  
 麥林  
 凉洲  
 芳斗  
 二毛  
 左静

縮シめシにシ糸ヲねシくシ依ヒ素シ山シ子シ  
 城シ跡ノ追ヒハシ見シくシかシくシ  
 長シ目ヲ遠シ目ヲ差シをシ見シせシくシ依ヒ素シ山シ子シ  
 人シ里ヲをシくシ依ヒ素シ山シ子シ  
 船シ旁ノ走シをシくシ依ヒ素シ山シ子シ  
 遠シ目ヲにシ依ヒ素シ山シ子シ  
 弓シ杖ヲにシ依ヒ素シ山シ子シ  
 鳥シのシたシ依ヒ素シ山シ子シ  
 鶴シはシ鳥ノにシ依ヒ素シ山シ子シ

射堂  
 維鳩  
 江蘆英  
 雲郎  
 全  
 洗雪  
 同  
 松本  
 有隣  
 松前  
 曲江  
 雁志



那留古

田舎にハ人の層がー那留古  
川ひよりのあたはまをふるうたうな  
横フ子紙史の老をやーなれたう那  
本後の報りはドやー那留古は  
さひーはハあつてもあぬを侍こ  
欠ーくおまよハチー素流古は

凉体  
可枝  
梅人  
煉攝津西宮房  
千婦後河内  
王才

野和幾

解魔法除の忍ろーうる野  
度まー馬法まが野

双飛  
凉備

鳴るに撞本のうごく法とあ  
割札を先起しー海野とあ  
静鶴の起るハころが野とあ  
糸唐ハ翼タツをうげと野とあ  
水多の河むと海野とあ  
横たの海えと海野とあ  
差くものかにかつと野とあ  
やま先くハ月の出て天海野とあ  
新海のおまると海野とあ  
捕ナ花イへちのまは届くのり  
映イ鏡リにやーをゆくと出と野とあ

全  
鬼士  
去路  
鬼洲  
長眉  
深林  
坂と  
萩路  
凉字  
成棠  
末了



くあり八田圃に清く野りさう那

江 案山子

鴨蹄の投出さくつ野りさう那

堵克

鶏冠の砂あびて居海野りさう那

甘甲斐小笠原古

涼まきくまきおくへも野りさう那

琳李

蒲葉若一にさく野りさう那

花明

一の家の脊中をつむむりさう那

下下弦小笠原涼

交道若へ差のまき居野りさう那

丁由

まきの出くけく居野りさう那

乙由

命入て、清もえくぬ野りさう那

古由

株糸を一日はく野りさう那

全

常葉木の秋くまき居野りさう那

一涼

笠紐の志まきく野りさう那

全

編笠を帯へけく野りさう那

涼戸

山鶏の尾に候く野りさう那

越後 霞舟

網撒く家を押へ海野りさう那

涼楓

新子に候く野りさう那

破了

堂上に吸く野りさう那

冠子

田も圃へ皆冷く野りさう那

艾梅

一時に繡昭見のぬけ野りさう那

蓋

剛力の杖一疾く野りさう那

可也

人あしぬ維の中さく野りさう那

雨管

あの柿はさく野りさう那

雨管



振綱女の骨づばあひ寄りてあうち  
若飾一風葉ものゝあう那  
今射はと茶山子の見えは野にそら  
冠の根をくめろけお野にそら

洗音  
上を相せ  
一  
計

如鳥化爲田鼠 むづらけして  
でんそとをほ

粟此穂やけく蘇も蘇もあがア

凍保

和多理登里

兼を路ひくあやととらりも  
他のまはえへくくくひくさうか

麦考  
林

兀山をおのか崎門やそらりも  
に伏ハ野にいそせくお多理登里  
兼に然神もやアとらり  
練鶴ハ後のたのりちやアとらり  
鶴や橋くそらに和多理登里  
言とくく雨もあくお多理登里

玄孫  
菴尺  
凍保  
晴帆  
百川  
青藍

雁 か?

けし海の男さきばや雁もあ  
おしや山へお水も野にならも  
あさあに赤いおがえむしあ

湖十  
葉圖  
一  
鼠



何喰りの髪して居侍やまゝの尸  
 今へまゝ後さぐりやうはくま  
 うゝ居る又持く園の糸ハおに  
 神尸や東まはるものまろもくへ  
 厚啼く禱に油をたづのみま  
 校懐ひとくまきふてを尸の  
 神尸やふいハまき後尸先  
 於歌の着にも付さびくはか  
 桺居 凉帛 全 附鳳 残馬 麥林 瀾城 許石

胡桃雀 ガヤマ

やはぐりや脊中又て居侍もまゝと  
 吟風

於桃菴のくぐりぬけくうに怖まらふ  
 兎士

桑鳥 まめは

喰ひ飽く居侍も見えまはめはい  
 鬼塚

新木鳥 てらついき

面圖へまゝ祈のまやうつま  
 啄本や侍見おがえく癒くへは  
 笑林 鴛象

鶉 らぶ

ニまゝくハ起さぬらぶ  
 笑也



翠林層の撮金をコハすれをチ替ハつキて  
 同若此中へはチ一チ出ルるグづド  
 一チあリとモまいひとうろふチ替ハつキて  
スモトリ角ト鯨リ人をチ砂チ一チやチ替ハつキて  
 おとまいひとうろふチ替ハつキて  
 海ノ底もとチやチ替ハつキて  
 氣みじうにチ衣をぬぎてチ替ハつキて  
 雁ノ家をぬけてチ一チあリとモまいひとうろふチ替ハつキて  
伊勢井字巴山  
下流小川伊山  
巴山

鴟もむ

月をチ替ハつキてチ梅杖しチ衣をぬぎてチ替ハつキて  
 早いとモまいひとうろふチ替ハつキて  
梅人九鼻

鷓もむ

山の中にちの田も何もとモまいひとうろふチ替ハつキて  
 つくくとけを林し小田もも替ハつキて  
梅人白扇

帰燕つわめ

燕ノ戸かへマうろふチ替ハつキて  
 野の中にちの田も何もとモまいひとうろふチ替ハつキて  
 燕ノ戸かへマうろふチ替ハつキて  
丹後津洲



燕アサオキや 栝キをささくしぬかへりや  
風アサオキ起も 栝キをささくしぬかへりや  
燕アサオキをささくしぬかへりや

起鳳  
楚調  
江相蝶

鹿 志々

若ニヤウジのち 栝キをささくしぬかへりや  
燕アサオキをささくしぬかへりや  
二人燕アサオキをささくしぬかへりや  
宮栝キをささくしぬかへりや  
栝キをささくしぬかへりや  
燕アサオキをささくしぬかへりや

休英徳は年大  
凉英徳は年袋  
希因  
全  
麥林  
白

燕アサオキをささくしぬかへりや  
風アサオキ起も 栝キをささくしぬかへりや  
燕アサオキをささくしぬかへりや  
二人燕アサオキをささくしぬかへりや  
宮栝キをささくしぬかへりや  
栝キをささくしぬかへりや  
燕アサオキをささくしぬかへりや

素園  
野的  
白枝  
珈凉  
梅隣  
一燕  
貞至  
西羊  
楚岫  
多少  
多戸



冥く待たるくハ事ハ麻草ノ事  
春イモの故隣さへりて花の事  
喚くお侍借名ノ衣領ノ麻草  
室のふん多麻草たりり麻草ノ事  
間くは衣の品梅や麻草ノ聲  
角の代派志の海をむし麻草  
三日月を見と侍々麻草の事  
庭くは葉は侍々や花々  
海ににくく入侍や麻草ノ事  
笑に打侍新結は枝や花々

上毛安中 蕪漢  
祇翠  
洗雪  
茶來  
東起  
度江  
伊勢大 麥推  
可由  
麥舟  
汶上

鱸

芋の葉にいさくらえ侍もさか  
八月の瀨磯志めく侍もさか

佐徳 維鳩  
ト二

鱒魚

右刀魚や網さる破侍皆魚もさく

上毛小泉 石城

鮎

鮎釣や角お侍もさく

支考

海鯔



網に又といくやきく日せの敷  
涼備  
吹よりの雲にあり海輕拽  
破了  
拾はせぬ網の房結やいこひ  
上毛お格  
物  
跡

過臘魚 さけ

初るに鱒魚や弓くむくふ下生  
丹後漆  
未  
迄

老溪鱒魚 あさひ

あさひのあひくさひて流輕いぞ  
宗端  
流輕くもや益屋のをもとをなす  
橋屋原  
寒  
瓜

杜父魚鳴 かくだ

流はるく流輕に「あか」のハ  
汶上

下築 やくだ

夕月も及くことすなやうな築  
常陸龍寺  
儿  
雲

鰻鱺築 やなぎ

悠々たるく流はるくながやな  
北太夫村  
投  
危

花野 のか

角おとく牛をよきあそび花野の家  
岸  
虎







古今片哥明是集卷之三

野草かどおろく見おろそ紫花水

笑好

雞冠花 とけい

赤いそや圃あ〜〜と霞て居居  
等月もまが〜奴寺や 雞冠 チーウ 不  
そいかに大津はよの紅 雞冠花  
鷄と掃を〜何とけい〜と  
日ありハ時も去〜と 雞冠花  
清つ〜に赤ハ鷄〜と 鷄冠花

去 疎  
蒙 翁  
ト の  
仙 翁  
一 庫

雁來紅 とけい

紫を継衣にの不居や紫けい〜

を 十 千

芒 まき

月を垂くカハ〜と〜と 我々  
居〜と〜と〜と 芒々  
耳〜と〜と〜と 芒々  
情たは鏡に赤〜と〜と 芒々

希 因  
柴 崎  
去 路  
根 口

芒花 まき

赤い〜の野中にゆ〜と〜と  
標 ハシ 根に〜と〜と 芒花

一 洗

古今片歌明是集卷之三



好路を道しけく舟は花死るを  
かい袖を振く見せしは花死るを  
縁の出舟跡の舟や花をく我  
是弱を懐きしうそ花を死るの那  
双生山まのそあふれ花を死るの那  
舟のそとく動くをばあふ  
帆へくく舟の船ゆくをくあふ

琴詩  
許六  
深更  
王才  
見風  
祇徳  
未了

蘆花 あしの

蘆葉のそとくそとくや花のそとを  
船へ船目ハ大舟しあふかん死

去門下  
湖宙  
祇棠

蓼花 たでの

つとくと妙は異さや花は花  
襟くも蓼冷し中や花を時

百川  
士鳳

藍花 あいの

おのが葉に麻斑ゆひしや藍のそと  
負船へ折舟をうさもゆき藍の花

信濃善光寺  
路友  
東起

牡丹分根 まがねの

ちくひるゑを根してふは牡丹小

江戸  
柳鼓

古今和歌集卷之三



蓮 實脱 はすの  
いとぶ

蓮の突ハ指にもるしむ、泥にりア 蒸本

蓮は実中、泥こそるあしりしきん穴 経指

蓮のまや深いまを、泥にん泥 伊勢山田  
蓮諸

蓮はしや流しぬ水に流るる泥 素指

零餘子 ぬら

指のくむぶあし、指ぬうでハ 涙家  
有る

芋 いも

目を何て保新新概概とあや芋 圃 京  
蝶夢

草綿採 とと

おにーくもひぬははぬや海圃 涼備

くく採や袖小あまうく脊中大和山  
東梅

午夢挽 ひさ

泥足の毛もむくくし午夢挽 東起

夢 臺子 蔀 よく

るくくすは少子に夕日の流流まぐ 破了



木賊川 りくさ

百姓のふくもろくび来械川  
 瓜はくたいたむ里やとくさ川  
 畑の目を休み磯ややとくさ川  
 きのひハ庵とれりく来械川  
 滝のりく齒のくく春やとくさ川

雙飛  
 涼洲  
 維鳩  
 青藍  
 西羊

茜系松 あく松

白曉下チカダの空又く出りり茜系松  
去ハ藩山  
 橘子

藥堀 くさ

いんろくは席のまじやくもり松  
 茶菰に消くく根も何で茶ほり  
 馬医者に灸の痕もくもり松  
 首シの灸シ度も落く茶ほり  
 ほく不の系にもさめてくもり松

汶上  
 千波  
 馬腹  
 時風  
 青藍

苦參挽 ひら

積持のさくひあふり苦參挽  
 維鳩

茯苓劔 いくてや

古今行次明題集卷之三



茯苓や劔ツケをえつゝるの毒

或紫英

草獵たけ

草獵やもるやをそハ持くを

上毛錦林  
耳風

草獵や糸は先多製かかり

其角

草獵や我り子をむふれを

金谷

草獵やあさこがーたこやこく

亀丈

草獵や麻ハくえく 踏まけび

武切中  
千世  
下塔籠子  
管吹

草獵や月見海まぐく山先くマ

上毛前橋  
參兄

草獵や橋の朽くも少りかへマ

城後言田  
如柳

桔樓から

魚柿ツルカキうけくまぎくからを瓜

上毛水田  
鳥水

王瓜つた

たまつさやその蔓ハ皆ちくく

破了

葡萄バドウ

まひ子に流乳のねく葡萄小

李北

あはくを落して見せは葡萄小

茂殊



白英 ホアカ 白英 いひやうじ  
瓶 ホアカ 瓶 いひやうじ にハ陸ぬひよ〜りト戸ハ 汶上

匏 びく

り水 びく の相あ〜りま〜ぬくべハ 白枝  
去に びく 藤〜りま〜は〜の匏ハ 兔士  
海伊 びく の去〜を〜ふぬく〜ハ 木路  
う〜と〜と〜花のあは匏ハ 蓼太  
別た〜尾衝新の〜ふ〜ハ 暗帆  
原 びく 水〜り〜を〜い〜ハ 可郷  
う〜〜〜〜 サゴロ 繼の去〜ぬく〜ハ 洗雪

おけ アカゲ 藤にま〜ふ〜ハ 西羊

木芙蓉 モクフヨウ

う〜〜い〜に〜ハ 冬扇 贗岐金毘羅  
相 モクフヨウ 辻糸の一枚〜ハ 秋父小鹿野 秋父小鹿野  
相 モクフヨウ 辻糸の一枚〜ハ 秋父小鹿野 秋父小鹿野 百梅

木犀 モクセイ

本犀 モクセイ や海も〜〜見は〜ハ 瑞芝 任徳小法

殊出替 アハツノ

出 アハツノ 幣や先の〜ハ 涼備



九クニチ日チ并キク菊

りかに来く菊つくらふと思ひりや  
秋ナシに花おりの種しりふを菊  
飛ト子コうウおのりオりリふフのノ菊  
幾く花をいイのウ枝エをエふフはハさサく  
のノ河カ水スイくク人ニにニ負ヒはハやヤ園キク 菊ハハヒ  
下シ戸ノのノ月ツキへヘふフえエくクハハ見ミせセばバらラふフはハ菊  
うウかカまマにニ花ハ枝エ拾ヒりリてテらラふフはハ菊  
はハうウかカさサをヲうウかカまマへヘせセ菊キク 菊キク 菊キク  
今イマ時トキうウくクハハ酒サケにニぬヌゆユやヤふフくクはハ花ハ

二水  
珈涼 上毛足利  
梅荷  
素園  
凉備  
凉宇  
雁志 江戸  
心紙  
深更

道の美も菊をアケ寄ツりリらラふフはハさサく  
常ナシくクさサひヒきキのノ酒サケやヤうウみミのノ花ハく  
菊キクのノ美ミもモ水スイくク一ヒトとト花ハあアほホうウあアくク菊キクのノさサか  
氣キのノ美ミいイなナはハ志シあアけケやヤ菊キクのノさサか  
菊キクにニあアらラふフくク花ハ枝エやヤ菊キクをヲまマをヲ  
ハハ重オモくクハハ美ミくクてテ見ミれレ菊キク 菊キク 菊キク  
枝エてテハハ花ハのノよヨりリなナやヤさサくクはハさサくク  
是コノかカどのノをヲこコせセくク一ヒトとト花ハくクはハさサくク  
葉ハにニ虫ムシのノ葉ハ吹フきキくクさサくクまマをヲ花ハ  
菊キク見ミぬヌ里サト静シヅしシ一ヒトとト花ハくクまマをヲ花ハ

後川  
双羽  
支考  
青藍  
双飛  
殊袋  
紫苑 能中七尾  
笑鴉  
祇丞  
圭宇  
梅史 摂津福原

古今月歌明長集卷之三  
下



原水ても葉に疎ぬくも菊つくと  
 垣ゆるく窓さく入まじむ菊 圃  
 昔の襟くとも水さくもんをか  
 季にるぬ沢中の女や菊は花  
 たのこは源よりさくさくはるか  
 幸るに花偉くりせくさくはるか  
 全 凍 係

妹 雛 像 ひいさの

角 鮫 人のあふてハあふはく茶うね  
 一 嵐

野言別 のいみや ねこくわ

吹あはく地移もく山や小柴垣  
 野宮はまきまにこく山うか  
 丹後ま付 東 柏

じうサンヤ 十三夜

柴舟の焚く賃しるも後ま月  
 下きありぬものをあいご十三夜  
 後の月野山に海は駒まらし  
 船はも常しと影や後ま月  
 不形かが鏡にのくふやほの月  
 庭へ渡は飽のあや後めつき  
 船はるぬ陸へるもし後のつき  
 鬼 回



あいさつの一えお介ー後のつそ  
 炊<sup>コタツ</sup>ー又侍あもをー後の月  
 船<sup>ヒヤウタン</sup>の品を供ー後のつそ  
 宴<sup>サカモリ</sup>も結<sup>シ</sup>藩<sup>バ</sup>州へハ下リ流ナニあ  
 結<sup>ミノムシ</sup>茶<sup>シ</sup>の家<sup>シ</sup>れ志<sup>シ</sup>ま<sup>シ</sup>や<sup>シ</sup>後<sup>シ</sup>のつそ  
 文<sup>シ</sup>くー<sup>シ</sup>カ<sup>シ</sup>履<sup>シ</sup>ハ<sup>シ</sup>後<sup>シ</sup>のつそ  
 石<sup>シ</sup>ふ<sup>シ</sup>一<sup>シ</sup>後<sup>シ</sup>のつそあ<sup>シ</sup>後<sup>シ</sup>のつそ  
 水<sup>シ</sup>門<sup>シ</sup>の鍵<sup>シ</sup>ハ<sup>シ</sup>び<sup>シ</sup>ー<sup>シ</sup>のち<sup>シ</sup>は<sup>シ</sup>つそ  
 茶<sup>シ</sup>も<sup>シ</sup>せぬ<sup>シ</sup>櫃<sup>シ</sup>の<sup>シ</sup>ま<sup>シ</sup>く<sup>シ</sup>や<sup>シ</sup>後<sup>シ</sup>のほ<sup>シ</sup>そ  
 袂<sup>シ</sup>ま<sup>シ</sup>で<sup>シ</sup>江<sup>シ</sup>中<sup>シ</sup>ハ<sup>シ</sup>あ<sup>シ</sup>く<sup>シ</sup>う<sup>シ</sup>お<sup>シ</sup>ち<sup>シ</sup>の<sup>シ</sup>月  
 あ<sup>シ</sup>れ<sup>シ</sup>り<sup>シ</sup>ど<sup>シ</sup>が<sup>シ</sup>黎<sup>シ</sup>の<sup>シ</sup>た<sup>シ</sup>く<sup>シ</sup>ど<sup>シ</sup>後<sup>シ</sup>のつそ

素花 笑林 州羽 江風馬 巴人 志 山州 一鼠 霞舟 古硯 瀾城

帯<sup>フロシ</sup>袂<sup>シ</sup>を<sup>シ</sup>抱<sup>シ</sup>く<sup>シ</sup>あ<sup>シ</sup>ひ<sup>シ</sup>や<sup>シ</sup>お<sup>シ</sup>ち<sup>シ</sup>あ<sup>シ</sup>る<sup>シ</sup>月 双飛

寶市<sup>のたいら</sup>

味<sup>シ</sup>冥<sup>シ</sup>ふ<sup>シ</sup>く<sup>シ</sup>ふ<sup>シ</sup>あ<sup>シ</sup>かり<sup>シ</sup>侍<sup>シ</sup>月<sup>シ</sup>見<sup>シ</sup>う<sup>シ</sup>あ  
 市<sup>シ</sup>は<sup>シ</sup>目<sup>シ</sup>り<sup>シ</sup>ふ<sup>シ</sup>ハ<sup>シ</sup>九<sup>シ</sup>合<sup>シ</sup>の<sup>シ</sup>味<sup>シ</sup>も<sup>シ</sup>あ<sup>シ</sup>ー  
 味<sup>シ</sup>も<sup>シ</sup>子<sup>シ</sup>は<sup>シ</sup>あ<sup>シ</sup>ほ<sup>シ</sup>が<sup>シ</sup>窠<sup>シ</sup>ぞ<sup>シ</sup>り<sup>シ</sup>ふ<sup>シ</sup>あ<sup>シ</sup>る<sup>シ</sup>市  
 飲<sup>シ</sup>不<sup>シ</sup>ー<sup>シ</sup>く<sup>シ</sup>味<sup>シ</sup>を<sup>シ</sup>抱<sup>シ</sup>や<sup>シ</sup>市<sup>シ</sup>は<sup>シ</sup>目  
 兼<sup>シ</sup>阿<sup>シ</sup>く<sup>シ</sup>ハ<sup>シ</sup>賣<sup>シ</sup>は<sup>シ</sup>も<sup>シ</sup>窠<sup>シ</sup>や<sup>シ</sup>市<sup>シ</sup>は<sup>シ</sup>目

芭蕉 凉傘 司鱸 柗居 杜菱

長夜<sup>のさよ</sup>

中<sup>シ</sup>さ<sup>シ</sup>あ<sup>シ</sup>や<sup>シ</sup>炎<sup>シ</sup>尋<sup>シ</sup>せん<sup>シ</sup>く<sup>シ</sup>は 坊<sup>イト</sup>車<sup>クルマ</sup> 破了



漆スリ櫛ハのふさをよめてもあハ去ハ去ハ一  
きさあやゆゆく右にかーこす  
きさあや漏トの徹トホはひし山松  
涼スズ坼ヒ

夜寒ヨヒヤサム

汗アセをけしそ星ホシをあそに氷ヒヤにそ  
あさく乃ナ一日サカイ敷クあさくあ  
欄ラン干カンの人ヒトをまのあさむさ  
まの松マツにちくさあさくあ  
床トコのうつくしうあさくあ  
茶チャ花ハナは肩カミあさくあさくあ  
涼スズ坼ヒ上ノ

武小麻野

凉坼

全

全

全

麥水

不フ道チは涼スズつとささあさくあ  
寝ネ衣イ一ヒトのカ帳ヤに美ミの入イあさくあ  
物モノき法ホウ八ヤツ時トキに言イハさあさくあ  
か涼スズの障セキ敷キあさくあさくあ  
冠イハ冠イハ茶チャのキ氣キもさめてあさくあ  
故コトのあを摺スむさあさくあ  
栗クリ焼ヤクく枝エにほすくあさくあ  
羨ソノにヒ飛トべ陳チもあさくあさくあ  
りリ尻シもあさくあさあさくあ  
返ヘン歸キくツク燈トウ燭ソクのキにあさくあ  
塗ヌ桶ツにヒ爪ツメも言イハさあさくあ  
吟イン風フウ

可登

冠子

凉素

里朝

可由

帶河

太阜

蝶角

柝門

梅圃

吟風



傾<sup>ウツ</sup>麻<sup>子</sup>の齋<sup>スシ</sup> 遠<sup>ト</sup>志<sup>シ</sup>めく<sup>ク</sup> 衣<sup>イ</sup>さむ<sup>ム</sup> 那<sup>ナ</sup>  
ろ<sup>ロ</sup>ろ<sup>ロ</sup> びの<sup>ビ</sup> 少<sup>シ</sup> 向<sup>ム</sup>へく<sup>ク</sup> 瘦<sup>シ</sup> 衣<sup>イ</sup>さむ<sup>ム</sup> 那<sup>ナ</sup>  
隅<sup>ク</sup>く<sup>ク</sup> へ<sup>ヘ</sup> 目<sup>メ</sup> 仕<sup>シ</sup> 切<sup>ケ</sup> ら<sup>ラ</sup> 海<sup>ウミ</sup> 衣<sup>イ</sup>さむ<sup>ム</sup> 那<sup>ナ</sup>  
中<sup>ナカ</sup>り<sup>リ</sup> びの<sup>ビ</sup> 袖<sup>スリーブ</sup> にか<sup>ニ</sup> かく<sup>ク</sup> 海<sup>ウミ</sup> 衣<sup>イ</sup>さむ<sup>ム</sup> 那<sup>ナ</sup>  
懐<sup>イ</sup>へ<sup>ヘ</sup> 中<sup>ナカ</sup> 志<sup>シ</sup> 飛<sup>トビ</sup> へ<sup>ヘ</sup> 夜<sup>ヨ</sup> さむ<sup>ム</sup> 那<sup>ナ</sup>  
八<sup>ヤチ</sup> 京<sup>キョウ</sup> 仕<sup>シ</sup> 隣<sup>リ</sup> 子<sup>コ</sup> に<sup>ニ</sup> そ<sup>ソ</sup> ろ<sup>ロ</sup> 衣<sup>イ</sup>さむ<sup>ム</sup> 那<sup>ナ</sup>  
衣<sup>イ</sup>さむ<sup>ム</sup> と<sup>ト</sup> 籠<sup>カゴ</sup> 籠<sup>カゴ</sup> も<sup>モ</sup> 衣<sup>イ</sup>さむ<sup>ム</sup> 那<sup>ナ</sup>  
志<sup>シ</sup> ろ<sup>ロ</sup> く<sup>ク</sup> と<sup>ト</sup> 麻<sup>マ</sup> へ<sup>ヘ</sup> た<sup>タ</sup> ため<sup>メ</sup> 衣<sup>イ</sup>さむ<sup>ム</sup> 那<sup>ナ</sup>  
衣<sup>イ</sup>さむ<sup>ム</sup> へ<sup>ヘ</sup> く<sup>ク</sup> 羞<sup>ハズカシ</sup> にも<sup>ニ</sup> 不<sup>フ</sup> 衣<sup>イ</sup>の<sup>ノ</sup> 衣<sup>イ</sup>さむ<sup>ム</sup> 那<sup>ナ</sup>  
炭<sup>スチ</sup> 窓<sup>マド</sup> に<sup>ニ</sup> 担<sup>カ</sup> 啼<sup>ナ</sup> 神<sup>カミ</sup> 衣<sup>イ</sup>さむ<sup>ム</sup> 那<sup>ナ</sup>  
ゆ<sup>ユ</sup> みて<sup>ミテ</sup> 見<sup>ミ</sup> 他<sup>ヒ</sup>の<sup>ノ</sup> 衣<sup>イ</sup> 見<sup>ミ</sup> 衣<sup>イ</sup>さむ<sup>ム</sup> 那<sup>ナ</sup>

由 戸 几 山 垂 芝 眠 石 嘯 山 一 嵐 可 也 洗 雪 祇 翠 武 下 巴 夕 西 羊

擣衣<sup>ウチ</sup> <sup>イ</sup> <sup>ハ</sup> <sup>ノ</sup> <sup>ウ</sup> <sup>チ</sup>

泣<sup>ナク</sup> 思<sup>オモ</sup> へ<sup>ヘ</sup> 衣<sup>イ</sup> せ<sup>セ</sup> ぬ<sup>ヌ</sup> く<sup>ク</sup> と<sup>ト</sup> さ<sup>サ</sup> め<sup>メ</sup> 衣<sup>イ</sup> <sup>ハ</sup> <sup>ノ</sup> <sup>ウ</sup> <sup>チ</sup>  
衣<sup>イ</sup> <sup>ハ</sup> <sup>ノ</sup> <sup>ウ</sup> <sup>チ</sup> に<sup>ニ</sup> 月<sup>ツキ</sup> の<sup>ノ</sup> 衣<sup>イ</sup> せ<sup>セ</sup> ぬ<sup>ヌ</sup> く<sup>ク</sup> と<sup>ト</sup> さ<sup>サ</sup> め<sup>メ</sup> 衣<sup>イ</sup> <sup>ハ</sup> <sup>ノ</sup> <sup>ウ</sup> <sup>チ</sup>  
物<sup>モノ</sup> 衣<sup>イ</sup> <sup>ハ</sup> <sup>ノ</sup> <sup>ウ</sup> <sup>チ</sup> あ<sup>ア</sup> る<sup>ル</sup> と<sup>ト</sup> 映<sup>ウツル</sup> 衣<sup>イ</sup> <sup>ハ</sup> <sup>ノ</sup> <sup>ウ</sup> <sup>チ</sup> 那<sup>ナ</sup>  
衣<sup>イ</sup> <sup>ハ</sup> <sup>ノ</sup> <sup>ウ</sup> <sup>チ</sup> と<sup>ト</sup> 仕<sup>シ</sup> 女<sup>メ</sup> に<sup>ニ</sup> 衣<sup>イ</sup> <sup>ハ</sup> <sup>ノ</sup> <sup>ウ</sup> <sup>チ</sup> さ<sup>サ</sup> め<sup>メ</sup> 衣<sup>イ</sup> <sup>ハ</sup> <sup>ノ</sup> <sup>ウ</sup> <sup>チ</sup> 衣<sup>イ</sup> <sup>ハ</sup> <sup>ノ</sup> <sup>ウ</sup> <sup>チ</sup>  
衣<sup>イ</sup> <sup>ハ</sup> <sup>ノ</sup> <sup>ウ</sup> <sup>チ</sup> の<sup>ノ</sup> 衣<sup>イ</sup> <sup>ハ</sup> <sup>ノ</sup> <sup>ウ</sup> <sup>チ</sup> に<sup>ニ</sup> 衣<sup>イ</sup> <sup>ハ</sup> <sup>ノ</sup> <sup>ウ</sup> <sup>チ</sup> と<sup>ト</sup> さ<sup>サ</sup> め<sup>メ</sup> 衣<sup>イ</sup> <sup>ハ</sup> <sup>ノ</sup> <sup>ウ</sup> <sup>チ</sup>  
衣<sup>イ</sup> <sup>ハ</sup> <sup>ノ</sup> <sup>ウ</sup> <sup>チ</sup> か<sup>カ</sup> して<sup>シテ</sup> 持<sup>テ</sup> 本<sup>ホ</sup> の<sup>ノ</sup> 衣<sup>イ</sup> <sup>ハ</sup> <sup>ノ</sup> <sup>ウ</sup> <sup>チ</sup> 那<sup>ナ</sup>  
尼<sup>ニ</sup> 寺<sup>ジ</sup> に<sup>ニ</sup> 衣<sup>イ</sup> <sup>ハ</sup> <sup>ノ</sup> <sup>ウ</sup> <sup>チ</sup> 衣<sup>イ</sup> <sup>ハ</sup> <sup>ノ</sup> <sup>ウ</sup> <sup>チ</sup> 衣<sup>イ</sup> <sup>ハ</sup> <sup>ノ</sup> <sup>ウ</sup> <sup>チ</sup> 衣<sup>イ</sup> <sup>ハ</sup> <sup>ノ</sup> <sup>ウ</sup> <sup>チ</sup>  
二<sup>ニ</sup> 朝<sup>アサ</sup> 衣<sup>イ</sup> <sup>ハ</sup> <sup>ノ</sup> <sup>ウ</sup> <sup>チ</sup> 衣<sup>イ</sup> <sup>ハ</sup> <sup>ノ</sup> <sup>ウ</sup> <sup>チ</sup> 衣<sup>イ</sup> <sup>ハ</sup> <sup>ノ</sup> <sup>ウ</sup> <sup>チ</sup> 衣<sup>イ</sup> <sup>ハ</sup> <sup>ノ</sup> <sup>ウ</sup> <sup>チ</sup>  
隣<sup>トナリ</sup> 衣<sup>イ</sup> <sup>ハ</sup> <sup>ノ</sup> <sup>ウ</sup> <sup>チ</sup> 衣<sup>イ</sup> <sup>ハ</sup> <sup>ノ</sup> <sup>ウ</sup> <sup>チ</sup> 衣<sup>イ</sup> <sup>ハ</sup> <sup>ノ</sup> <sup>ウ</sup> <sup>チ</sup> 衣<sup>イ</sup> <sup>ハ</sup> <sup>ノ</sup> <sup>ウ</sup> <sup>チ</sup>

免 士 一 音 玉 芥 不 残 西 羊 双 飛 凉 楓 鬼 來 鳳 左



奇にるんこのごさひーと破々那  
門あのおもくさひーと破々那  
敷杖は移るあはせ侍さめくか  
こまにハををくく破々那  
女房に剥くくすくや小長さめく  
毀他は拍子に寄くく或ゆく  
絶頂くく宿見て居侍さめく  
すまゆくく麻に成侍さめく

樹仙  
宜考  
去路  
雨石  
希因  
車宇  
白陀  
秀陽

新酒

是あがふまうまにこへむ新酒

其角

位右の神もるにあふ新酒

拂居

魚簾打 あつろ

あま〜は麻布も打あつろ

汶上

霧霰 つれ

おさくてもす〜ハはや露志ふ  
西条圃に粗のぬまや露志ふ  
雲の今や宙り〜つゆ〜  
菊はもるおにつく日や露志ふ

蘆錐  
洗雪  
涼傘  
希因



雲 つかも

あふりやほまむに路まにそほ

鬼路

峰越息 のをかこ

一とまむ絶頂に湖や毫の丁息

汶上

熊館 かくまのた

本に熊の新や粟をゆまこほ

丘鶯

虫 擇 らむしえ

物名の袖をむらにして使えり

破了

擇ありれ擇あふりしと一虫のあり

貞室

擇に糸も大牛ぞ 虫 虫 教

梅里

爵入大水為蛤 むいめたいをいはい

にしよてしよ砂水やむしとむし

涼袋

紅葉 鯛 もみぢ

麻糸にしよのほ夕日やとみぢ解

汶上

地錦 つく

つれづれ竹四ふむはあし

芭蕉



赤松ぞおのがほくしりつこのいけ

尾 菜人

萬年青 とねも

水くけく茶を研並はおもとく  
笑にまきく中の時流さあゆま

武継父かほ  
雨葉 維鳩

紅葉 らもい

月むしりあてたて出まお葉小  
橙於のえくくハ漏し海もみちら  
水おちくくハくまはくハくお葉小  
船旁のくく吹くへきりみちら

希因 左菊 凉備 大阜

みりたに麻のまむいどお葉小

一 麓

万山へ日ハ葉山よゆくもみちら

瀨城

洞水の蓋流くへくもみちら

麥林

物の乾は京は晴くやくもみちら

阿坡

春かきぬ道をさくくお葉小

鳥系

はやくに雨の流し海もみちら

白枝

掃人の笛にも流れもみちら

柳居

洗濯へまきハつくもみちら

伊山

多ハ皆深ぬにまきくもみちら

左文

芳山保まきく思の物くもみちら

吼圭

池岸に解もくくまはもみちら

芳楚



銀杏かて

仮カまつけくもの、花はなをくいてふ

下松施子  
午仙

松不變色

まついろ  
をかへむ

若わかのまうく海うみにまふより松まつのい海うみ

加十

南天燭ナンテンショク

あまや珠たまに海うみせくかけくそく

下松施子  
羽臣

賽珊瑚サイサンゴ

さいご

野のにくくくをくしくめをとと成なり  
洞ほら壁かハハ小こままのまやや梅うめももどどきき  
ああままののああいいでで見みゆゆやや梅うめももどどきき  
見みゆゆののああいいでで見みゆゆやや梅うめももどどきき  
見みゆゆののああいいでで見みゆゆやや梅うめももどどきき

乙路  
焠午  
岷郎  
少波  
破了

栗栗

ああままののああいいでで見みゆゆやや梅うめももどどきき  
ああままののああいいでで見みゆゆやや梅うめももどどきき  
ああままののああいいでで見みゆゆやや梅うめももどどきき  
ああままののああいいでで見みゆゆやや梅うめももどどきき  
ああままののああいいでで見みゆゆやや梅うめももどどきき

涼備  
理帆  
宗端  
芙蓉



思後の船りて粟中 栲エヤク子コクク分  
おち栗や 栲ステゴ思ゴに 益を 益せくゆく

下流カ川 志シ中チウ  
双ソウ非ヒ

椽子ケンシ

じんぐりの 飛トビく 加益カエキの 暴ヒラシ作サ

見風

柿カキ

柿カキの 味アジや 皮カも 毛モも ぶらぶらも

下流カ川 仙セン老ロウ

梨カ

家系ケイや ぬぬに と ちちも ちちも 梨カの いい話話

下流カ天テン草ソウ 壺ウ洲シュ

柘榴シズク

下草カを くくに ささが 柘榴シズクを  
菊キクも 乙ニ路ロに 似にく 柘榴シズクを  
ゆゆの 端ハハ 諸シヨええく けけくろくろを  
日ヒの 実ミ見ミに 見ミせ 柘榴シズクを  
二ニ日ニ月ニの 小コカカの 水ミヅくくささく 話ワタな  
又マタ花ハナの ややに 冨フいいくくささく 話ワタな  
水ミヅくく小コを 花ハナと 似にくくろろを  
飛トビくく水ミヅ物モノ 益エキひひくくささくくろろを

去路 乙路 里楓 凉宇 雨石 六柿 花明 眠石 笑牛



涼帝 キツキ 本を以て破にむせりゆく松極うを

柑 んみ

神農も掌りハまふみかんウを 糸岡

包橘 トウ

並好に良負のおふさかろトル 再可

金橘 ウミ

金橘や嗅ぐハ猫の逐まハ 去後加増 自來

田青橙 だい

四喜柳の本卦かハロウマウマウ 陸奥越川 芥用

饅頭柑 んが

饅頭柑やそんハ身 〓 〓 〓 仙臺 菊史

小袖 ゆ

他齒ハ空にのつくイ味香小 糸岡平戸 梅里

よはるそ此あハ空かト袖ニそハ 千林

榎子 ウヤ



さびーはや芳甲を極子に思ふし後

枇杷隣

推子のふひ

草鞋に推ふささるるおくれり  
桂の葉や葉さく星べら葉ハ見くは

尺艸  
涼傘

菓この

露草に滴の確居このさくを

西洋

殊あきの夕いさの

樹幅カウモリをえんてあちやはまくと

涼傘

お減さくあたぬ袖や沼のくは  
さびーが居糸にふまや沼のくは  
沼の葉糸ひとの葉をくらかがた  
ひそくと麻にゆくちや沼はくは  
漕こゆくあもあるく沼のくは  
多タ起タる水もくくは沼のくは  
空カラ網シにく遊シらや沼はくは  
遊シ船シに遊のまづくや沼のくは  
出出女逆旅婢の居あるちやあるのくは  
持持にゆく孫ハをけやあるのくは

双飛  
六伊藤三ッ快榜  
士高  
青藍  
眠石  
芭叩  
千竹  
桐谷濃はま田山  
凡山



暮 殊 くあさの

ゆく海や冬のぬけは水に入侍  
け 秋や暮の後にハ不とぞ  
小暮まのかがりハはびり暮の牛  
名の志まぬ雨にまがり路をく  
り路や持佛志まむかひと  
懐ひしよよに拵く路をく  
外路や西瓜の中は水 走  
冬秋のそをけりや麦はつけ  
り路のそよも葉くいとくはま  
枝にあ保相の一葉や路のく

尾 理 然  
越中清川 知 十  
涼 佛  
斗 光  
左 菊  
下城山 松 菊  
伊勢山 吳 雪  
見 風  
越後正海 林 雅  
萩 路

葉牛茶の枝さく拵く路のく  
葉船にまろく勝もあさ枯る  
葉もせぬは茶のそや路のく  
そ瓜ハ沢中款しけに路のく  
あ路のそくこがもあま

越中七尾 醉 菊  
秦 亀  
一 鼠  
梅 路  
麥 林



